

橋梁技術発表会 及び講演会

参加費
無料

定員
200名

申込
先着順



新型コロナウイルスの感染拡大により中止となる可能性があります。
定員は感染症対策を考慮したものです。状況により変更となる可能性があります。

第1部 技術発表	13:00~13:10	開会の辞	北海道土木技術会 鋼道路橋研究委員会委員長 松本 高志
	13:10~13:50	① 気仙沼湾横断橋の施工報告 ～気仙沼湾横断橋における海上架設～	架設小委員会
	13:50~14:00	休憩	
	14:00~14:40	② スリランカ ケラニ高架橋 工事報告 ～スリランカ初となる都市連続高架橋の建設～	海外事業委員会
	14:40~14:50	休憩	
第2部 特別講演	14:50~15:50	欧州における橋梁の維持更新技術	一般社団法人日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 技師長兼企画長 谷倉 泉
			
	15:50~16:00	閉会の辞	橋梁技術発表会 実行委員会 副委員長 春日井 俊博

日時
令和4年 **10月28日** (金)
13:00~16:00

会場 **かでのる2・7 かでのるホール(1F)**
札幌市中央区北2条西7丁目

申し込み Webサイト <https://www.jasbc.or.jp/>
受付は令和4年9月28日~10月18日
※申し込みは、Webサイトからのみです。

連絡先 一般社団法人 日本橋梁建設協会 北海道事務所
〒060-0061 北海道札幌市中央区南1条西10丁目4
第2タイムビル 瀧上工業株内
TEL 011-232-0303

継続教育 CPDS申請予定

開催地区 ●東京地区:10月7日(金) ●中部地区:11月9日(水)
●大阪地区:10月14日(金) ●東北地区:11月18日(金)
●北海道地区:10月28日(金) ●九州地区:11月25日(金)
(6地区開催ですが、発表テーマは異なります)

資料配布 会場では配布いたしません。必要に応じてWeb
サイトより出力し持参願います。

【アクセス】



- JR札幌駅南口:徒歩13分
- 地下鉄 さっぽろ駅(10番出口):徒歩9分
大通駅(2番出口):徒歩11分
西11丁目駅(4番出口):徒歩11分
- JRバス北1条西7丁目(停留所):徒歩4分
- 中央バス北1条西7丁目(停留所):徒歩4分
- 公共地下歩道(地下歩行空間から北1条地下駐車場連絡路をお通りください)
1番出口:徒歩4分

【来場時のお願い】 ●来場時に検温および体調の確認をさせていただきます。 ●来場時には、マスクの着用をお願い致します。
●体調不良の場合は、来場を自粛して頂きます様、お願い致します。

1 気仙沼湾横断橋の施工報告

気仙沼湾横断橋は、「復興道路」として位置付けられる三陸沿岸道路の一部です。その海上部は、主塔高さ100m、ケーブル1面吊の3径間鋼斜張橋であり、斜張橋としては東北地方最大となります。(橋長:680m=160m+360m+160m)

本橋の起点側の約半分(P10~斜張橋中間部:朝日地区上部工工事)をJFE・IHI・日ファブJVで、終点側の約半分(斜張橋中間部~A2:小々汐地区上部工工事)をMMB・宮地・川田JVにて施工し、主桁最終(閉合)ブロックの架設および主桁閉合作業は、小々汐地区上部工工事で実施しました。

小々汐地区上部工工事では、架設地点が主に海上部であるため、主塔や主塔近傍の主桁の架設には大型起重機船を用いた大ブロック架設工法が、主桁のバランス架設においては航路規制下での吊上工法が採用されました。また、架設地点は、日本有数の水揚げ量を誇る気仙沼漁港につながる航路となっていることから、工事に際しては、漁業船や水域利用者等の一般航行船舶に対しても十分な配慮が必要でした。

以上より、本稿では小々汐地区上部工工事における、主塔架設~主桁架設~設備解体までの一連の施工方法、使用した設備・起重機船・クレーン、施工における留意事項及び一般航行船舶に対する安全対策について報告します。

2 スリランカ ケラニ高架橋 工事報告

本工事の現場はスリランカの経済的な中心都市コロンボの北部に位置し、第二の都市キャンディーへ通じる国道と、コロンボ港アクセス道路および国際空港に繋がる国道が接続する交通の要所にあります。慢性的な交通渋滞の解決を目的として、日本政府の有償資金協力(STEP事業)により高架橋道路が建設されました。

現道上およびジャンクション区間は、鋼製ラーメン橋脚と合成床版鋼連続箱桁が採用され、鋼重は上下部工と合成床版パネルを合わせ約2.2万トンでした。またその契約工期は3年であり、鋼橋の製作および現地架設において短工期施工が求められました。

製作は、工程実現のため日本、ベトナム、タイ、ミャンマーの4カ国5工場による分担施工とし、モックアップによる事前検討を行い溶接品質の確保に努めました。架設は、現道の規制が夜間の片側のみに限定されましたが、門型ベントやセッティングビームの採用、合成床版へのワンサイド高力ボルトの採用による足場の省力化などにより短期施工を実現しました。

特別講演会 講演者紹介

一般社団法人日本建設機械施工協会
施工技術総合研究所 技師長兼企画長

谷倉 泉

講演テーマ

欧州における橋梁の維持更新技術

【主な経歴】

1982年3月 国立 長岡技術科学大学 大学院 建設工学専攻 修士課程修了
1982年4月 (社)日本建設機械化協会 建設機械化研究所 入所
2012年4月 (一社)日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所に改称
2019年3月 熊本大学にて学位取得
2022年4月 技師長 兼 企画室長
現在に至る

【専門/研究】

鋼構造物およびコンクリート構造物等に関する
メンテナンス技術全般

【講演概要】

コロナが蔓延する直前の2019年に訪欧したスイス、ドイツにおける橋梁を中心とした構造物の補修・補強、大規模更新に関する新技術や材料について紹介する。調査団の団長は藤野陽三先生で、各分野の専門家からなる総勢24名であり、我が国では見られないような貴重な情報も多い。時間を見て、我が国の維持管理分野における現状の課題と研究成果も若干紹介したい。

令和4年度

橋梁術発表会

北海道地区

10月28日(金)

参加申込方法▶



一般社団法人 日本橋梁建設協会
Japan Bridge Association

ホームページよりお申込み下さい。

<https://www.jasbc.or.jp/>

「技術発表会」
の申し込みはこちら。